

## 井上勝善氏所蔵文書・資料

津久井郡津久井町青根

井上家文書は、木村礎氏（現在、明治大学名誉教授）を中心とする明治大学日本史研究室の有志が、昭和27年から昭和32年にわたって調査を実施し「神奈川県津久井地方文書目録」を編集した。県（神奈川県史編集室）では、昭和42年度から県政100年を記念して始まった県史の編集でその目録を『神奈川県史資料所在目録－津久井町－』第13集に所蔵者井上正氏の名で収録した。（収録については、同13集、木村礎氏の「目録刊行に際して」を参照。）その後、県立文化資料館が平成元年に資料の確認と中性紙袋への入れ替えを目的として調査を実施した。その調査の結果、追加すべき新たな文書が確認された。そこで、13集に掲載された資料目録は、現物と照合し誤植の校正と補記とにつとめるとともに追加文書と合わせて収録させて頂き、『神奈川県古文書資料所在目録－第13集－』（平成3年3月、神奈川県立文化資料館編集）として刊行した。翌2年、津久井町各支所（旧役場）の文書を調査・整理していた折、井上勝善氏から父正氏が青根村役場・支所勤務時に作成・使用した文書、各委員就任のとき配布された資料や和書・漢籍・医薬書は別にしてあるが調査の対象に入らないか否かの相談をうけた。下見をして、津久井郡勢誌編集のために調査した時の資料は、湖底に沈んだ集落やその地域を知る上に欠かせないものであり、正氏が青根村役場・支所勤務時に作成・使用した文書等は、青根支所所蔵旧青根村役場文書を補完する役割を果たすものであり、さらに散逸の危険もあったことから平成3年から数年計画で調査を実施することとなった。調査結果は、資料目録として『神奈川県古文書資料所在目録－第15集－』と本冊第17集とに収録した。（注意、第17集に掲載した目録には、個人情報保護のうえから閲覧出来ない資料もある。）

当家の調査は、平成元年8月から始まり（当時県立文化資料館）平成6年8月の県立公文書館調査目録作成をもって終了した。この間、平成2年を除き延べ5か年、延べ19日を要した。調査延べ人員は81人に達した。総資料調査数4,394（件・点）。

### 古文書・近現代文書資料調査作業経過

第1次、平成1年8～9月、延べ2日間、延べ14人	971点
第2次、平成3年9～10月、延べ5日間、延べ21人	200件
第3次、平成4年7月、延べ4日間、延べ18人	339点
第4次、平成5年5月、延べ5日間、延べ19人	961件
第5次、平成6年8月、延べ3日間、延べ9人	923点

# 梅沢信一氏所蔵文書・資料

津久井郡津久井町青山

梅沢家は、江戸時代、荒川番所のあった荒川の水運を利用して甲州、武蔵、相模の間に物々交換をもって繁栄し、現在の東京都中央区日本橋内に相模屋と号して薪炭商を経営して明治・大正期に至っても盛業を極めた（篠田皇民著『自治団体之沿革』）。また、江戸時代末期から大正期にかけて「八重桜」の銘柄で造り酒屋をも営んできた。明治42年7月から大正3年9月まで5年3カ月、馨兒氏が神奈川県会議員をつとめた。梅沢家の資料は元来土蔵に保管されてきたが、土蔵の解体とともに文書の多くは消滅した。この目録に掲載した他に馨兒氏宛の書簡を含むはがき・手紙類が多数ある。中には、当地にバスや電話を開通させるための資料も存在する。

梅沢信一氏所蔵資料調査は、県立文化資料館が平成3年12月の津久井町文化財保護委員長高城治平氏の予備調査を請けて、平成4年7月と同5年5・6月とに延べ5日間かけて実施した。調査延べ人員22人、調査資料は約3,000点、この内、整理し目録を作成した数は418タイトル1,260点であった。

## 目録作成内訳

冊・状	14件	.....	291点
酒造類	39件	.....	49点
慶弔類	11件	.....	11点
絵葉書	64件	.....	486点
写本	6件	.....	21点
刊本	58件	.....	101点
書籍	208件	.....	248点
雑誌	18件	.....	53点

# 小野沢信治氏所蔵文書

津久井郡津久井町又野

小野沢家は、江戸時代後期から明治期にかけて商業を営んでいた。弘化年間八王子千人同心を勤めた人に小野沢勘次郎がいる。文書は、元禄5年3月付け「又野村権左衛門名寄」を上限に昭和20年に至る。主なものに八王子千人同心由緒書、文政10年関東取締御改革帳写、善勝寺本末衆評授式記録帳、小野沢家の仕入れ等営業に関する帳面、千人同心小野沢勘次郎他宛廻状がある。過去に調査や利用されたこともない全くの新出資料である。調査点数655点、目録作成数407点（図書・地券・その他248点は未目録）。調査は、平成7年2月に延べ4日間実施した。調査延べ人員15人。107点（491コマ）の文書をマイクロフィルム撮影により収集した。

マイクロフィルム撮影した文書は、「相州津久井県中村高写・五人組」「小野沢勘次郎他宛廻状」等冊子・横帳・廻状・状で、その中から江戸時代が中心である。当公文書館で閲覧できる。

## 目録作成内訳

冊子の部	40件	.....	43点
横帳の部	104件	.....	104点
廻状の部	8件	.....	21点
証状の部	7件	.....	19点
状の部	210件	.....	220点

## 中島秀雄氏所蔵文書・資料

津久井郡津久井町鳥屋

中島家資料は、教育関係資料に特色がある。小学校本科正教員であった中島庄太郎氏の関係によるものであろう。他に、富士山信仰に関する掛け軸がある。調査終了後、当主中島秀雄氏と令夫人から県立公文書館へ寄贈された。

調査は、平成7年2月13・14日の延べ2日間で、調査人員は、延べ7人で実施した。資料は、江戸時代末期から昭和期に至る。調査点数326点、目録作成は245タイトルであった。

### 目録作成内訳

文書 36件	69点
軸物 17件	27点
講義ノート等 27件	42点
教科書 114件	114点
教科書二 22件	22点
登記・借用金証文等 24件	38点
私文書 5件	14点

## 井上勝夫氏所蔵文書

津久井郡藤野町牧野

井上家は、江戸時代には牧野村大川原組の組頭であったが、近代に入ると明治2年から昭和の戦前期まで酒造業を営んでいた。太平洋戦争末期に学童疎開で女子を受け入れた家でもあった。

公文書館での当家文書調査は、神奈川県史編集室が調査した後のアフターケア、目録照合による資料の確認、中性紙袋への入替え、新資料の調査・整理・目録作成、マイクロフィルム撮影の実施を目的とした。この結果、井上家文書総数量1,611点を確認した。この内、神奈川県史編集室目録作成済文書は282タイトル382点（『神奈川県史資料所在目録 補遺3』第49集所収）、新資料部分が971タイトル1,229点であった。新資料の内訳を見ると、冊子65点・状文書835点・近世武家文書5点・手文庫入文書6点・地券249点・書画軸物20点・書簡41点・水損不開8点となる。

今回の調査では、資料の確認、中性紙袋への入替え、マイクロフィルム撮影の実施とともに、新資料の内、冊子の一部・状文書・書簡・水損不開を除く68タイトル326点を整理し目録作成を終えた。状文書835点の内、331点は保存袋への表題書きを終えた。残りの作業については、所蔵者と日程を相談の上実施していくこととなった。調査は、平成6年9月と7年2月に延べ7日間実施した。調査延べ人員36人。89点（3,588コマ）の文書をマイクロフィルム撮影により収集した。

マイクロフィルム撮影した文書は、『神奈川県史資料所在目録 補遺3』収録の内から、冊の部はNo.40・51を除く全部で寛文4年から明治中期に至る資料、冊土地の部は、No.9を除く1～10で「慶長9年 相州津久井之内牧野村御地詰帳」を初めとする江戸時代の資料、大冊の部はすべて、そして、今回の調査で目録作成した「近世武家文書」「手文庫入文書」である。当公文書館で閲覧できる。

## 吉村毅氏所蔵文書・資料

津久井郡藤野町佐野川

吉村家に伝来した文書・資料は、現在当家と山梨県上野原町教育委員会との2か所に所蔵されている。この2か所で所蔵している資料については、藤野町史編さん室が新発見の資料として平成元年に調査し『藤野町史資料所在目録 第2集』（以下、『所在目録 第2集』と略）に収録した。県（当時県立文化資料館）としては、町史編さん室が酸性紙の袋で整理していたのを資料の確認と保存度の高い中性紙の袋に入れ替えることを目的に平成4年8月と平成5年4～5月、延べ5日間にわたり調査を実施した。『所在目録 第2集』と資料とを照合した結果、照合が困難であった。また、同目録には数量の未記載部分が多く、目録上にどのような内容の文書なのかを明らかにする必要を感じ、所蔵者の了解を得て県独自の資料目録を作成した。

『所在目録 第2集』と大きく異なる点は、数量の記載、文書内容の明示は勿論のこと、上野原町教育委員会で所蔵している分は未確認のため掲載せず、分類項目を近世近代一般・寺社・書籍・賞状辞令他・台本（町史）から形態別編年を原則とした。すなわち、冊・横帳・状・絵図地図・高札・軸物・刊本・写本ノート類・写真に分類した点である。整理は、当然『所蔵目録 第2集』でも検索できるように処理した。

吉村家は、宗太郎氏が明治11年から同22年の初めまで佐野川村戸長を勤めたが、戸長役場資料は少ない。上野原町教育委員会所蔵吉村毅氏旧蔵資料は、「慶長9年6月佐野川村検地帳抜書」から明治末年に至る江戸時代29件、明治期25件で全数量は71点（『所在目録 第2集』による）である。当家所蔵の「火付けを禁じた5カ条の高札」・「キリシタン宗門を禁じた高札」いずれも正徳元年5月のものと明和7年4月「百姓の徒党・強訴・逃散を禁じた高札」は、多少虫損の害はあるものの文字は明確に読める。確認して目録を作成した数は、445タイトル500点であった。調査延べ人員14人。

（収録文書所蔵者別解説は田島光男が執筆した。）

## 神奈川県古文書資料所在目録

### 第 17 集

編 集 神奈川県立公文書館  
発 行 神奈川県立公文書館  
館 長 大 迫 修 一  
〒220 横浜市旭区中尾町8番地  
☎ (045) 364-4456  
FAX (045) 364-4459  
発行日 平成 7 年 3 月 30 日  
印刷所 中川印刷株式会社  
〒231 横浜市中区山田町7-1  
☎ (045) 261-2101

